

15年  
の  
歩み

A large, stylized hand-drawn number '15' is positioned above the word '年'. Below '年' is the character 'の'. To the right of 'の' is a series of wavy lines that curve upwards and outwards. Below these wavy lines is the character '歩'. To the right of '歩' is the character 'み'.

作 S.53年度 オリオン班

## 目 次

はじめに	―――	1
隊長の言葉	―――	2
38年度	―――	3
39年度	―――	4
40年度	―――	5
41年度	―――	6
42年度	―――	7
43年度	―――	8
44年度	―――	9
45年度	―――	10
46年度	―――	11
47年度	―――	12
48年度	―――	13
49年度	―――	15
50年度	―――	17
51年度	―――	18
52年度	―――	19
編集後記	―――	20

## "はじめに"

「シニア15年の歩み」を機関してもらうにあたりみなさんに理解していただきたいと共にあらためてシニア活動に対する感心をも、こもる為にここにこの文書の意味を説明したく思います。

というは、元来、シニア隊の遠征と云うと地方遠征、又は北山方面と必ずのように野外で泊するというのが常でした。そして内容のある報告書。この形にはまた、た遠征が、3年 倭連の班の遠征 報告書として表われるのがこの文書だ。

なぜ、いままでこの遠征が、今年のような形になつたか、「な、こしま、たか」とは言へない。なぜなら倭連の遠征はしようがないからこうなつたのではない、また、十分とは言えないが、出来る限りの集会を行ない、出来る限りの案を出し合ひ一番、意気のあが、たこの案を実行するに当た、たわけだ。知る人が聞いたらどう言うかもしれないが、決して案をしようと思、2つの計画を立てたのではない。真剣にみんなが努力し行動したのです。ではなぜこのような案が出たかといふと、本宣はこの文書サンバニニア15周年の時にみんなにくばる予定でした、ところがこの時、あまりこの予定を重視しないなか、たのか、こふにあらず、た担当者が一人で、それも他の仕事とかけもどして……という状態でした。もう3人結果は、ほとんど何も手がけの状態で終り、こしま、反対会の時にモ、一つの意見くろへの形で、この計画の失敗が、発表されただけでした。しかしこの時、倭連の班員の頭に残念という形とともに、すごく心のこりの形で残、たわけです。そして 遠征の予定の時、この意見が出たとたん、みんなの心の中から「とんだ!!」と言うように、よみがえ、たのです。それから後は…

「遠征とは遠くを征するだけではない」という言葉を、倭連は 身を持、立指したのです。まちろん、その為には、ハスルな悪条件があり、たかだという事もありました。計画段階における日程の問題、遠征参加者の参加状況の問題、そして何よりも、予想の問題、しかし、この遠征はこれまでの悪条件をみごとに克服したといえます。その裏には、また、計画段階においては成功したと倭連が自負します。しかし、こふかたの人達にわかれ、こもるいたいのは、こふかたが、眞の遠征だ!といふではなく、こふかたの遠征の1つで、条件さえ整えば、もう別の遠征をしていただこうとあります。

こうとすることです。ようするに遠征とは、すべてこの条件をみたしかつ最高の結果が生まれるように努力すること、これを題に入れて以後のシニアリュックを行な、これをいたいと言ふことです。

以上が、この文書を作成するにあた、この一冊にいう前書きです。文書といふのも、報告書として見えていい、これが3年のオソオニミの遠征報告書です。

## "シニア隊 15年の歩み"に寄せ

52年度隊長 楠本信也

今回 オリオン班の諸君が 編集、作成してくれた "シニア隊 15年の歩み" が もうすぐ 活字になろうとしています。

今回の 編集プロジェクトが、今後の個々のシニアリングに向かのキッカケを与えてくれることを期待するとともに、この"15年の歩み"によって少しでも、過去のシニア隊足跡を 把握し 現在の我々の姿を自分から 知る資料になればと思います。

この ミニ歴史表が、どのような、プロセスを経て 計画、立案されたかは "はじめに" に記されております。

スカウト諸君の、素直で、率直な意見を見聞きすることによって、日常 気がつかない、多くの点に 気づき、かつ リーダーとして責任を感じる結果になります。

スカウト活動が、重なる行事の連続ではなく、あくまでも、スカウティングでした。1つの表れとして、また、その1つの結果として 行事があることを再確認しなくてはいけません。

この プロジェクトは、色々な面に渡って、我々に指針を与えてくれたように思ります

小さくながむ、スカウト諸君には 大きなものであったと思いますし、リーダーにとっては、それ以上に大きな収穫となりました。

思ひ出は、過去の為にではなく、現在の、明日から続く未来の為に、一

38年度

隊長代理

(隊員)

オリオン班

班長

岸田 伸一郎	16	隼	上京区上御靈馬場町 373
野村 昌宏	15	/	上京区上御靈馬場町 375
福井 和雄	15	/	上京区室町今出川上ル西
酒井 智	15	/	上京区相國寺南門前町 636
則内 慶彦	16	/	上京区室町今出川上
末吉 平克	15	/	上京区寺内新町面入

ペガサス班

木野 孝	16	菊	北区寺町鞍馬口下ル 西入 285
野本 明	15	/	上京区寺町今出川上ル 西入 桧木町 403
小林 達生	15	/	上京区柳形寺町東入ル
山村 利一	15	/	上京区寺町今出川上ル 西入 桧木町 403
羽田 充	16	/	上京区上立堀鳥丸西 40
宮西 敬明	16	菊	上京区寺町鞍馬口下ル 354
前川 昇	15	/	上京区武者小路新町 西入

当時の年令

50 京都市上京区寺町鞍馬口  
下ル高徳寺町 348

39年度

隊長 小川 玄締 副長 春近 寛 上班 水野 云

(隊員)

オリオン班

班長	末吉 平克	16	菊
	野村 昌宏	16	菊
	前川 昇	16	一
	寺島 清	15	菊
	上田 正三	15	二

上、相國寺東門前町  
上、新町今出川上ル東入ル

ペガサス班

班長	福井 和雄	16	菊
	野本 明	16	一
	東秀幸	15	一
	高橋 良	15	一

上、上御靈町  
上、相國寺門前宮本町

40年度

隊長 小川玄締

上級班長 末吉平克

(隊員)

オリオン班

班長 野村昌宏 17 菊

寺島清 16 菊

末吉邦康 15 一

中川正博 15 二

上、寺之内新町西入

北、紫野<sup>藤の森町</sup>

ペガサス班

班長 福井和雄 17 菊

高橋良 16 一

水野正己 16 一

堀池平司 15 一

上、寺町通鞍馬口下ル西入ル

北、出雲路松ノ下町

41年度

隊長 小川玄締

上班 末吉平克

隊付 福井和雄

(隊員)

オリオン班

班長 寺島清 18 菊

末吉邦康 17 1

中川正博 17 1

野村信一 16 2

大藪俊一 16 2

左、下鴨上川原町 13-5

左、下鴨岸本町 62

ペガサス班

班長 高橋良 17 菊

水野正己 17 菊

堀池平司 17 1

原島和宣 16 2

角井輝信 16 2

上、上御靈馬場町 372

上、相國寺北門前宮本町

42 年度

現在の職業

隊長 小川 玄締	僧侶
上班 高橋 良	彫刻家
隊付 寺島 靖	銀行員

(隊員)

オリオン班

班長 末吉 邦康	17	菊	私学事務員
野村 信一	16	1	地方公務員(柏崎)
角井 輝信	16	1	建築家
大藪 俊一	16	1	日本IBM

ペガサス班

班長 木野 正己	17	菊	農林省
堀池 平司	17	菊	染色
中川 正博	17	1	じゅうたん製造販売
原島 和宣	16	1	建築家

43 年度

隊長 小川 玄締  
上班 中川 正博  
(隊員)

オリオン班

班長 角井 輝信	17	1	
大藪 俊一	17	1	北、小山東大野町 48
松尾 佳則	15	1	北、紫野東龍森町
松野 幹雄	15	2	

ペガサス班

班長 原島 和宣	17	1	
野村 信一	17	1	北、寺町鞍馬口西入ル
中村 三之助	15	1	北、寺町鞍馬口西入ル上ル
野崎 正和	15	1	

45年度

隊長 小川玄諦  
副長 末吉平亮

(隊員)

オリオン班

班長	松尾佳則	17	/
次長	今村晃一	16	/
	大島智一	15	/
	広瀬陽	15	/
	山副俊和	15	/
	細川三喜夫	15	/
	金剛次郎	15	/

ペガサス班

班長	野崎正和	17	/
次長	中村三之助	17	/
	仙波正男	15	/
	松本直久	15	/
	堀江洋	15	/
	大嶋正徳	15	/

46年度

隊長 小川玄諦  
副長 末吉平克  
上班 今村晃一

(隊員)

オリオン班

班長	大嶋正徳	/	オリオン 班長	細川三喜夫	/
次長	広瀬陽	/	調理師 次長	大島智一	/
	内前博之	/	3	足立進	/
	本多直樹	/	4	星野秀一郎	/
	宮西徳明	/	5	島田茂生	/
	利根川健	/			

サンリ班

1	リバ派	班長	細川三喜夫	/
2	調理師	次長	大島智一	/
3			足立進	/
4	中学講師		星野秀一郎	/
5	端太斗		島田茂生	/
	京外太斗			

ペガサス班

班長	仙波正男	/	2	h.h. 調理
次長	金剛次郎	/	3	
	鶴田茂一	/	矢崎綾葉	ギター職人
	小林孝夫	/	図書館事務員	大阪市立大
	石田正茂	/		

ジェピター班

班長	山副俊和	/
次長	堀江洋	/
	松本直久	/
	鈴木熙	/
	小松耕治	/
	中学講師	
	杉原治	/

48年度

隊長 末吉平克

副長 水野正己

オリオン班

班長 本多直樹 /

企画委 内藤博之 /

宮西徳明 /

利根川健 /

吉田寛 /

三宮宏之 /

桑原陽 /

サンリ班

班長 足立進

星野秀一郎

島田茂生

中川雅博

野村和樹

仙波逸夫

ペガサス班

班長 鶴田茂一 /

小林孝夫 /

企画委 小寺信一 /

河嶋義忠 /

遠藤豆 /

ジュピター班

班長 杉原治 /

小松耕治 /

鈴木黙 /

企画委 中川健治 /

小室裕志 /

坪内則博 /

(48年度)

今年も、四班編成の大所帯であった。53とこの年は、53年度のSS隊長である鶴田茂一氏をはじめ、本多氏などから班長をしてもらえた。この年の遠征は春に行なわれ、伊豆へ移動やシグの形で、2泊3日の行程で、行なわれた。これは、隊の中の班2つに分れ三島での班がそれぞれ別の行動をし、最後日に合同でする予定だが、リーダーが来ないためか、2泊目から5、合同になってしまった。

夏は、BS隊の奉仕としてかのえらい、えらい 大日ヶ岳で有名なひるがの高原での 夏季野営に参加。この年のBS隊上班には、星野秀一郎氏かなっている。

## 49年度

隊長 末吉 平克  
 副長 水野 正己  
 " 大藪 俊一  
 " 角井 輝信  
 上班 中川 健治

### (オリオン班)

班長	中川 雅博	/
次長	仙波 逸夫	/
	遠藤 亘	/
	谷角 浩人	/
	桜井 青司	/

### (ペガサス班)

班長	野村 和樹	/
次長	桑原 陽	/
	小室 裕志	/
	内藤 勇	/
	内田 寛治	/

### (エミニ班)

班長	吉田 寛	/
次長	坪内 利博	/
	小寺 信一	/
	利根川 有次	/

## [49年度]

この年は何と言つても、サンパチ発団15周年である。

班は一班減って3班になった。この年の最初(9月)に、毎月1回必ず班集会をもうけるように決意した。また、ガールとの交換会の企画が現在のB.S隊副長仙波逸夫氏の手によってされたが、隊員の中で風邪が流行し、欠席が多く、惜しくもお流れになつたのである!!

北山地区ミニアライーでは38回隊の企画の面での検討の結果、大変高度なすばらしい計画がなされている。けれども、コースを知ってしまった人が参加できないのが残念。38回ミニア隊の技量は当日のラリーでは發揮できなかつた。

年の暮れから年始にかけては年越会をよび、新年のつどいが北元山中にあるヒツジ小屋で催されつゝ。各自が家のあせち料理を持参(ニアのあそく)にをつくり新年を祝つたのである。1月1日午前7時00分33、東の空に赤々と登つてくる太陽の光に向つて日の出を拝む。

昭和49年5月のユーレティックには38回発団15周年記念団野営及び式典が催された。S.S隊では、1917=アリゾナとしてモニキーブッシュの製作ハピヨンケーツ(田代ム)を行つた。また、田の色々な係を分担した。

夏には第6回日本シャンボリーか北海道のチセバテがありS.S隊からは中川(准)、仙波...以上本部隊付坪内、利根川(准)、小室、野村、内田の4名が参加する。この年のニア隊の奉仕は、B.S隊へ小室(上班)、仙波・桑原・遠藤(以上隊付)また、カ隊へインストラクターとして中川、野村両氏が行く。

さて、この年の遠征は広河原から名田庄へ出、小渕へ向ける移動キャンプが形で行われた。この時の反省は次のようであつた。

『計画がおそく夏休みにはいつから、コースをもうすこし考えよべきだった』  
 『未だメーバーにてなく全員参加であつまつしかつた』

『田庄へんせーをあつたが決めるのはよくなかつた』

『GS交換会、クローバーハイの企画があそく企画と実行のあいだが不明確だ』

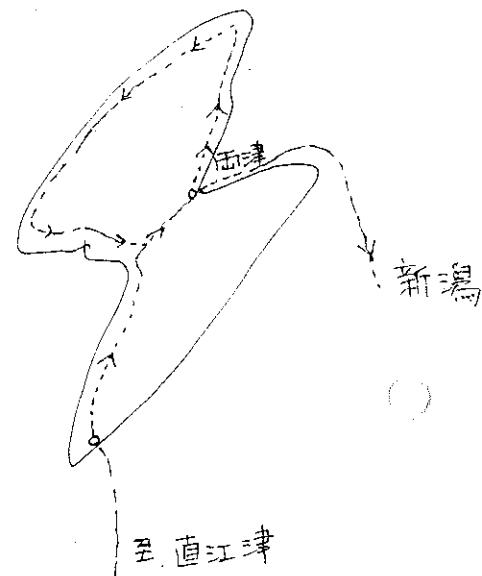
50年度

隊長 末吉 実伯  
 副長 水野 正己  
 中村 三之助  
 大藪 俊一  
 角井 輝信  
 上班 仙波 逸夫 17歳

(オリオン班)  
 班長 桑原 陽  
 次長 坪内 則博  
 谷角 茂人  
 梶井 清司  
 吉田 聰  
 松原 暢彦

(サンリ班)  
 班長 遠藤 亘  
 次長 小室 裕志  
 利根川 有次  
 内田 寛治  
 大嶋 福成  
 遠藤 若  
 福井 昌広  
 原田 勝  
 堀内 誠

遠征) 佐渡



51年度

隊長 末吉 幸克(実伯)  
 副長 水野 正己  
 複本 信也

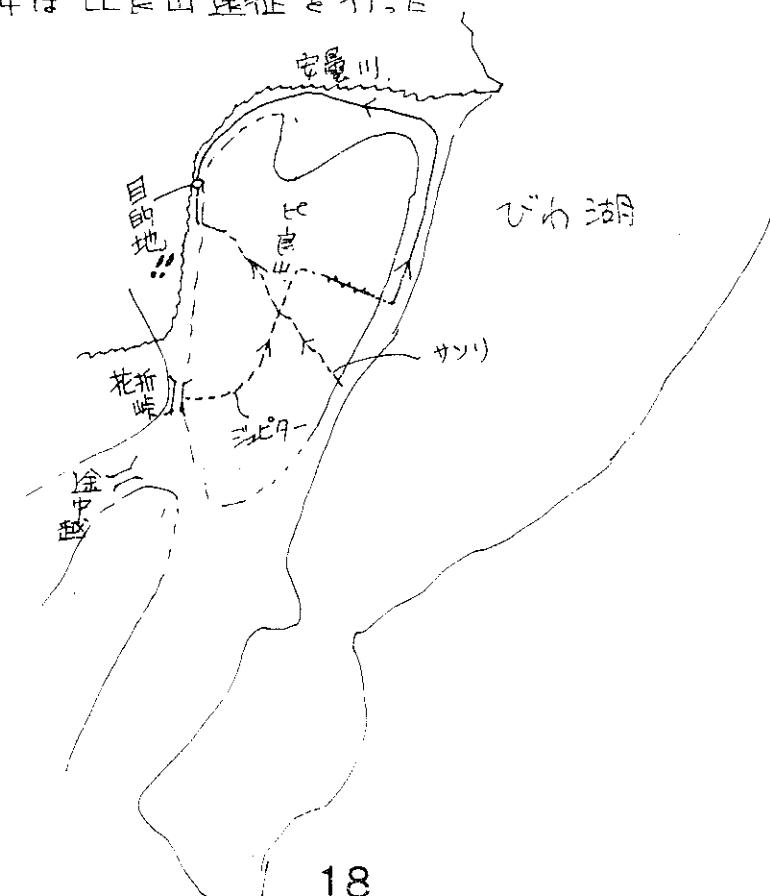
(オリオン班)  
 ジュピター

班長 利根川 有次  
 樹村 清司  
 大嶋 福成  
 松原 暢彦  
 塚上 公昭  
 高城 正典

サンリ班

班長 谷角 浩人  
 内田 寛治  
 古田 聰  
 遠藤 浩  
 河原 昌史

。二の年は比良山遠征を行った



52年度

隊長 末吉央伯  
副長 親本信也  
大森俊一  
上班 古田聰

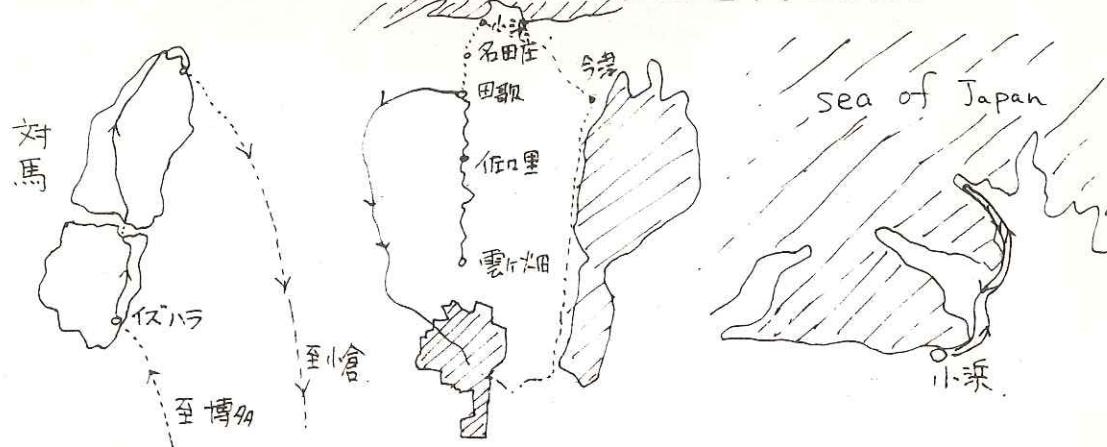
### 《ジュピター班》 《ペガサス班》

班長 松原賜彦	班長 大嶋 福成
次長 塚上公昭	次長 河原 昌史
吹田法明	高城 正典
中西 浩	中川 義雄
山川勝也	西村 浩行

更障、遠征は上記の関係なく3つのチームに分かれを行われた。  
個人の班の

- 吉田・河原・西村・中西 ..... 北山系縦断
- 高城・山川 ..... 日本海
- 大嶋・塚上・中川 ..... 対馬

この中には、岐阜手前で歩けなくなった人がいて、全行程を達成できなかったチームもあるが、みんな無事に遠征をやりとげた。



### 一編集後記一

当初、コメントを入れてやると言う事であったが、先輩の方々が「方々へ分散されており、時間不足から極最近の事柄からいか集められないか」と。今!! 発行を前にしてこれまで班集会の数をあまり持てず、その班集会も十分なものができるなかったこと。少し反省しなければならないと思う。計画し始めたときは、みんな「…」ものを仕上げようと思いつきであります。時間がたつにつれて制作意欲が減退したのが悪かった。また、この編集を通して、いったい何を得ようとしていたのか、つまり、テーマ的なものかはっきりしていないのではないか? ただ、年代別にいろいろな事を調べても、たゞそこまで止まってしまうのではなく、編集したことから何かをつかみとくれば「良いと思う。」だけではなんであるのか? 各自三年ぶりつかみとったと思われるが問題は三年をどう言う風に今後アスクラティングにいかしていくかだと思います、二の編集をどのように生かして活動をしていきたいと思います。